

先端科学セミナー

日本は海に囲まれている島国です。皆さんは「海」というと何を連想するでしょうか。浜辺で海水浴という遊びの場、魚や貝を採取する食糧の源、はたまた海底油田のようなエネルギー資源の供給というように、「海」にはさまざまな側面があります。私たちの生活に「海」は、なくてはならないものなのです。地球上の生命は「海」から誕生しました。「海」をよく見渡してみましょう。そこには、サイエンスがあふれています。今回は、「海」の近くに研究拠点をかまえて、生物の研究をしているお二人の先生に「海」の魅力、「海」の可能性、「海」に棲むいろいろな生き物たち、「海」に寄り添って研究をする醍醐味などなどを語っていただきます。このセミナーを聞いたあなたも、きっと「海」に行きたくなるはずです。海にいこうよーサイエンスの宝庫へー、開幕です！

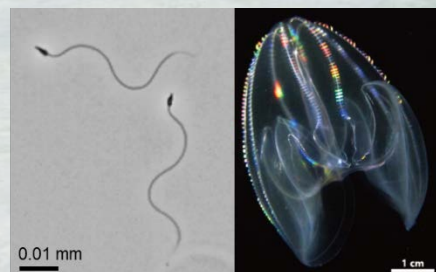
第 11 回

「海にいこうよーサイエンスの宝庫へー」

海の中のミクロの世界ー鞭毛と繊毛

柴 小菊（筑波大学下田臨海実験センター 助教）

伊豆半島のほぼ先端に位置する筑波大学下田臨海実験センターで海の生き物を材料に鞭毛・繊毛の研究をしています。鞭毛・繊毛は単細胞生物のゾウリムシから私たち人間まで多くの真核生物が共通に持つ運動器官です。長さ数十マイクロメートル、直径0.3マイクロメートルほどの微小な毛の波打ち運動が効率的に水流を生み出し、微小生物の遊泳や体内の水流形成に重要な役割を果たしています。ホヤ、ウニ、クシクラゲなど多様な海の生き物を使った研究についてご紹介します。



北限域の造礁サンゴとウニの発生生物学

清本 正人（お茶の水女子大学 湾岸生物教育研究センター 教授）

房総半島南端にある臨海施設での調査や研究の様子を紹介します。南の海のイメージのある造礁サンゴは東京湾口まで分布しています。これまで継続してきた潜水調査によると、ここ数年で海底の様子が大きく変わり、円卓状のサンゴが増加してきました。多様な海産動物の中でもウニは発生学の研究に適した材料です。左右対称な幼生が五放射相称の成体になるユニークな生活史とゲノム編集技術を使った最近の研究を解説します。



日時：2021年5月16日（日）14時～16時 ※オンライン（Zoom）にて開催

対象：女子中学生・高校生・大学生・大学院生・一般

主催：お茶の水女子大学 理系女性教育開発共同機構

申込み・問い合わせ先

申込フォーム <https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Plone/stem/11sentan>
から、5/13（木）までにお申し込みください。

お茶の水女子大学 理系女性教育開発共同機構

E-mail: ocha-cos-office@cc.ocha.ac.jp TEL: 03-5978-5825 FAX: 03-5978-2650

要申込